

# 都公退連合会会報

## 第5号

発行日 2025(令和7)年3月31日  
発行所  
東京都公立学校退職教頭・副校長  
連合会 会長 大西規子  
〒176-0005  
練馬区旭丘1-29-6  
電話 03-3950-8969



東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

## 目 次

1. 都教委への要請活動 会長 大西規子.....	p 3
2. 連合会とは 山浦朝日 .....	p 4
3. 令和6年度総会報告 令和5年度 行事報告・決算報告 .....	p 5
令和6年度 行事計画(案)・予算(案) .....	p 6
4. 令和6・7年度 連合会役員名簿.....	p 7
5. 令和6年度活動報告 .....	p 8～P12
・教育懇談会の開催 ・連合会研修会報告 ・「旧安田邸・復興記念館・北斎美術館」研修 ・1泊2日の小田原・箱根湯本の研修旅行 ・丹沢でBBQ(秋) ・地図づくりについての研修会	
6. 令和6年度 研究報告 大河内保雪  「不登校防止への退職教頭・副校長の役割について」 .....	p13～p19
7. 東京都教育委員会への要請文 .....	p20
8. 連合会会則.....	p21
9. (公財)日本教育公務員弘済会東京支部教育振興事業選考委員会について .....	p23

## 令和 6 年度 都教委への要請活動

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会 会長 大西規子

連合会では今年度も活動の柱として東京都教育委員会に要請活動を実施致しました。例年と違うのは要請活動を行う勉強会として東京都教育委員会の先生方をお迎えして教育懇談会をもつことができました。都の教育委員会指導主事の皆さんの忙しさは半端でないとこれまでお聞きして来たので個人的には実現できるのかという不安さえいだいておりました。

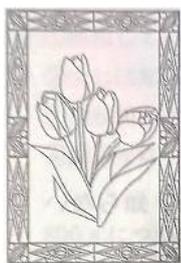


当日を迎え足元の悪い中、お二人の先生方が九段南の会場まで足を運んでいただき有難く嬉しかったです。そこでの話合いと後日頂いた回答をもとに要請文の内容について何度も話合いを重ねて文章を練ったつもりでした。その後、和田氏に要請文をまとめて都教委に提出いただきました。

数日後、メールだけでは失礼になるかなと思い、形だけでもと担当者に手渡しに都庁にお伺いすることになりました。私は久しぶりに訪問する都庁の第二庁舎でした。入館手続きの指導を受け、そのために設置されていた機械の前で一瞬戸惑う有り様でしたが入館手続きを終え待ち合わせの 17 階にいきました。

当初は和田さんと私の二人で行こうと思っておりましたが、これまでの経緯から高校、小学校からも参加してもらった方がいいかなと思い声かけをしました。突然の声掛けにもかかわらず、参加の快諾をいただき大河内氏（高会長）大谷氏（小会長）の総勢 4 人で伺いました。

お渡しするだけと思っていましたが担当の指導主事より一問一句の内容確認をいただき、その内部事情の詳しさと緻密さと丁寧さに圧倒される思いでした。そこで感じたことの一つに、連合会は連合組織なるがゆえに小中高の教育環境が大きく異なることをもっと意識して内容を具体的に表現することも大切だと学びました。年をあげた一月には 12 ページにわたる正式な回答文もいただきました。要請活動を通して更なる連合会の発展に向けて邁進したという思いを再認識いたしました。



最後に、これまで要請活動の経験もない私ですが、今日を迎えることができました。役員の皆様、会員の皆さまに支えていただけたことに心から感謝申し上げます。引き続き連合会へのご協力をお願い申し上げます。

## 連 合 会 と は …

『連合会(略称)』は、およそ 30 年の歴史を持つ組織です。

スタート時は？

退職後の処遇(年金・退職金の削減反対等)に関して、それぞれの部会が、現職教頭の処遇向上等も含め、個別に都教委へ要請していました。小学校部会と都立学校部会が連携を深めた時、中学校部会に声掛けが行われ、中学校会員の有志が参加し『連合会』を名乗ることとなりました。

ここに、校長会にも無い、特色ある『異校種連携』が生まれました。

『連合会』は、

- 1、東京都公立小学校退職教頭・副校長会
- 2、東京都公立中学校退職教頭・副校長会
- 3、東京都立学校退職教頭・副校長会

の 3 団体が、『東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会』という名のもとに、教育振興のための諸活動をしています。

『連合会』は、三つの視点を持っています。

- 1、自分たち自身を見つめる眼。

退職後の生活が豊かなものであるように。

職責を果たしたことが、公に、認められるように。

- 2、後を継ぐ者たちを見つめる眼。

職務に専念できる環境が整えられるように。

公教育の担い手として責任を果たせる力を身につけるように。

- 3、子どもたちを見つめる眼。

『生きる力』をきちんと身につけられるように。

『いじめ』や『貧困』にさらされることの無いように。

『連合会』は、『役に立つ会』でありたい。

会員にとっては…情報交換が役に立つ集まり。

会うことが楽しい集まり。

社会に対しては…経験を生かしたボランティア活動。

機会を生かした発信活動(教育を語る)。

校種を越えた貴重な出会いの場。これからも繋がり続け、新しい人脈が生まれる場であって欲しい、と願っています。

これからの連合会を考える視点は。

変化を受け入れつつも、公教育の危機を感じる今、『異校種』が交流できる貴重な場を失いたくはないと思います。

- ① 自身の生活を守るために、どんな活動が出来るのだろうか。
- ② 学校教育を守るために、どんな活動が出来るのだろうか。
- ③ 子どもたちを守るために、どんな活動が出来るのだろうか。
- ④ 組織の維持発展や若返りは、どうすれば可能なのだろうか。

また、「公教育の危機」のうち、少子化によってもたらされる危機は、解決が遠いけれど、『いじめ』『不登校』『格差』については、このままで良いのかと、大声を張り上げなくとも、連携し、機会を捉えて、誠実に、訴え続ける集まりでありたいと思います。

(文責 山浦朝日)

## 令和6年度総会(令和6.6.27)報告

## 1 令和5年度

## 行事報告

2024.6.27 総会にて承認

要請活動と新年会以外は14:00~16:00 弘済会会議室を使用

令和5年	6月7日(火)	総会準備(原案作成)
	6月21日(火)	定期総会
	9月12日(火)	都教委への要請文検討会
	12月20日(火)	東京都教育委員会へ要請活動
令和6年	1月27日(日)	新年会(横浜中華街)
	2月19日(日)	講演会実施
	3月12日(火)	年度反省, 次年度予定作成

## 決算報告

2024.6.27 総会にて承認

単位:円

収入の部	金額	摘要
前年度繰越金	54,015	
令和5年度分担金	15,000	5,000×3部会
研究助成金収入*	500,000	HP維持, 連合会報, 研究費等
新年会残金	1,222	
収入合計(W)	570,237	

支出の部	金額	摘要
新年会名札	2,904	
通帳手数料	550	
研究助成金支出	500,000	HP維持, 連合会報, 研究費等
支出合計(X)	503,454	
残高(W-X)	66,783	
次年度繰越金	66,783	

【凡例】\*印は、日本教育公務員弘済会から教育研究活動の助成を目的として交付されたもの。  
上記の通り、報告いたします。令和6年3月31日

連合会会計 堀江 徹 印

## 2 令和6年度

## 行事予定(案)

2024.6.27 総会にて決定

要請活動と新年会以外は14:00~16:00 弘済会会議室を使用

令和6年	6月4日(火)	総会準備(原案作成)
	6月27日(木)	定期総会
	9月10日(火)	都教委への要請文検討会
	11月中を目途に	東京都教育委員会へ要請活動
令和7年	1月25日(土)	連合会新年会(13:00~)予定
	3月11日(火)	年度反省, 次年度予定作成

## 予 算 (案)

2024.6.27 総会にて決定

単位:円

収入の部	金額	摘要
前年度繰越金	66,783	
令和6年度分担金	15,000	5,000×3部会
研究助成金収入*	500,000	HP維持、連合会報、研究費他
収入額合計(Y)	581,783	

支出の部	金額	摘要
本部連絡費, 都教委要請活動費	6,000	
研究助成金支出	500,000	HP維持、連合会報、研究費等
支出額合計(Z)	506,000	
残高(Y-X)	75,783	
次年度繰越額	75,783	

【凡例】 \*印は、日本教育公務員弘済会から教育研究活動の助成を目的として交付されたもの。

#印は、会議室として都教弘会館4階(50人規模)を借用。(有料)

「新年会」は、その都度決済し、残高は会費に繰り入れる。不足時は、会費で充当する。

## 令和6・7年度 連合会役員名簿

顧問	氏名
小学校	野沢 宏治
中学校	山浦 朝日
都立学校	前川 法久

連合会会長	令和6・7年度は小学校
小学校	大西 規子

副会長	各部会4名
小学校	高松 泉
小学校	大谷 明
小学校	須山 道雄
小学校	宮崎 博佳
中学校	相原 一矢
中学校	西川 順
中学校	松島 健治
中学校	小出 統英
都立学校	前迫美智子
都立学校	平田 晃
都立学校	針馬 利行
都立学校	大河内保雪

理事	各部会4名以上
小学校	岩本 美枝
小学校	石渡 明
小学校	川上 紀代子
小学校	藤井 正昭
中学校	大西 幸江
中学校	飛弾 静子
中学校	福岡 健
中学校	和田 俊彦
都立学校	長田 真一
都立学校	小川 達夫
都立学校	堀江 徹
都立学校	湯澤 賢兒

監事	各部会1名
小学校	宮本 叔徳
中学校	山口 敬子
都立学校	松田 輝美

選考委員	各部会より
小学校	豊田 英昭
中学校	西川 順
中学校	福岡 健
都立学校	大河内保雪

## 活動報告

### 教育懇談会の開催

連合会主催

日時 令和6年6月23日(日) 午後1時より5時

場所 世田谷ボランティアセンター会議室

参加者	都立八王子北高校副校長	友常 裕	元多摩市教育委員会指導主事	五十嵐夕介
	国際基督教大学4年	鈴木 りゆか	都立芦花高校2年	佐藤 綾子
	安田教育研究所	平松 享	世田谷区教育アドバイザー	高嶋 実
	連合会中学校	福岡 健	連合会小学校	大谷 明
	連合会都立学校	前川法久、大河内保雪	湯澤賢児	

#### 1 男女平等教育について

- ・都立高校では、2024年度入試で男女定員枠が撤廃された。そのために、男女の割合に変化の激しい学校が生まれている。
- ・学校で男女平等教育が進んでおり、制服、トイレ、ランドセル、水着などで変化がみられる。
- ・体育の授業で体力差の問題があり、困っている学校もある。
- ・今後、トランスジェンダーの取り組みが必要である。
- ・少子化と同時に未婚者が増えている結婚問題が起こっている。

#### 2 不登校児童生徒の防止対策について

- ・現在不登校対応のために、中学校で4校の学校を担当する不登校対応巡回教員が配置されている。
- ・不登校生徒のためのオンライン授業も進められている。
- ・不登校生徒の人数は、1クラス2～3名となっている。
- ・不登校対策については、区市町村で違いがある。区市町村の違いは、不登校だけの問題ではなく、教育全般に及んでいる。
- ・八王子市では、教室のエアコンが14%しか設置されていない。
- ・外国人の多い地域では新たな課題も生まれている。
- ・都立高校は、昼夜間定時制、エンカレッジ、チャレンジなど多様な高校を作り対応している。
- ・都立高校では、障害を持った生徒の入学も多くなってきている。
- ・都立高校では、少子化問題がある。20人学級が望ましい。

#### 3 都立高校入試について

- ・男女合同選抜の影響は、今後検証されなければならない。
- ・推薦入試では、内申点の高い女子のために推薦入試方法を変えた学校もある。(三田)
- ・部活動の影響の出ている学校もある。
- ・高校入試は、少子化の影響が大きい。中学生15万人から7万人の時代が来る。
- ・都立高校の再編が不可欠である。
- ・通信制高校への進学率が大幅に増加している。
- ・大学も危機感を持っており、大学付属高校への人気が高まっている。
- ・塾では、通信制サポート校も増えている。

#### 4 その他の問題

- ・教員不足や若手教員の早期退職が増えている。
- ・世田谷区では、孤独死が増えていることがある。

(文責 大河内保雪)

## 連合会研修会報告

都立学校 大河内保雪

日時： 2024年11月17日(日) 日曜日 午後1時より5時  
 場所： 世田谷ボランティアセンター会議室  
 (最寄駅 田園都市線三軒茶屋駅 徒歩10分)  
 参加者： 小学校部会 大西規子、大谷 明  
 中学校部会 西川 順、和田俊彦  
 都立学校部会 大河内保雪、前川法久、小川達夫、湯澤賢兒、  
 外部講師 五十嵐夕介、白井一郎、柴崎菜苗

次の2つのテーマで研修会を行いました。

### 第一部 要請書の検討

13:00~14:00 各部会からの要請書の検討 (p20に要請文掲載)

### 第二部 研修会

テーマ 「不登校を考える。退職教頭副校長アンケートより」

司会 大河内保雪(都立学校部会)

14:00~14:10 連合会会長挨拶 大西規子(小学校部会)  
 14:10~14:30 アンケート結果の発表 湯澤賢兒(都立学校部会)  
 14:30~14:50 「不登校の現状と対策について」  
 五十嵐夕介(不登校対応巡回教員)(オンライン参加)  
 14:50~15:10 「高校進学指導と不登校について」  
 白井一郎(子供の成長と環境を考える会代表)  
 15:10~15:30 「八王子市の不登校対策と都立高校の現状について」  
 小川達夫(都立学校部会)  
 15:40~16:40 質疑応答  
 17:00~ 希望者による懇親会



<オンライン参加の様子>

※ アンケートの集計結果及び報告は、p13 研究報告参照

## 旧安田邸・復興記念館・北斎美術館研修

小学校部会



■若い人々が両国国技館を目指して早足で歩く人数の多さにビックリしました。私たちは旧安田邸庭園へ。静寂な庭、色づく柿の実に秋を感じました。その後、慰霊堂と復興記念館へ向かいました。その悲惨さに胸が痛みました。東京大空襲の展示物は、私の子供時代の体験と重なり 戦争だけは二度と繰り返してはならないと、平和への願いを新たにしました。次にすみだ北斎美術館 『北斎が紡ぐ平安のみやびー江戸に息づく王朝文学』の企画展を楽しみました。日本の美、の素晴らしさを味わいました。(岩本)

■連合会の皆様と旧安田邸、震災復興記念館、北斎美術館を散策しました。旧安田邸庭園は整備されたお庭で秋の風情を楽しんだ後、テレビの画面越しにみてきた慰霊堂と復興記念館に足を踏み入れ緊張しました。関東大震災の日は台風とも重なって一気に火災が広がったといいます。東京大空襲の悲惨さにも足がすくみました。その後、訪問した北斎美術館では北斎の迫力ある絵画を楽しむことができました。(大西)



■北斎美術館に行って、昔のことを沢山思い出しました。台東区着任した時、学区内に北斎のお墓があったこと。以来、各地にある作品を見に行ったこと。西新井大師で年に一回開帳される弘法大師修法図と北斎美術館の諏佐之男命悪疫病神退治図の復元図は有名になったこと。富嶽三十六景目当てで外国人が大勢来るようになったこと等々。(宮本)

日時 令和6年10月19日(土) 10時～12時

コース 旧安田邸→復興記念館→北斎記念会館

参加者 大河内、湯澤、針馬、福岡、和田、宮本、岩本、川上、大谷、井上、小川、大西

## 1泊2日の小田原・箱根湯本の研修旅行

中学校部会

令和6年11月1～2日、6名で研修旅行に行ってきました。県立「二宮記念館」を訪ねました。二宮金次郎の生涯を県下の小中学生が郊外学習で来る立派な見学施設でした。彼は、貧しい中で勉学に励みつつやがて大人になって次々に素晴らしい業績を残しました。薪を背負って本を読みながら歩く姿の二宮金次郎の像は有名です、その後の数々の業績は余り知りませんでした。藩のひっ迫財政を立て直すなど後世に名を残した偉人で、大型モニターの動画アニメで興味深く知ることが出来て、あらためて感動しました。小田原漁港で魚定食を食べた後、「小田原文学館」に赴きました。多くの文人や詩人が住んだ“文学のまち小田原”と言われており、古き白い瀟洒な洋館に文人・詩人の資料展示がありました。庭先の広い芝生で、私たちは寝そべてくつろぎつつ往年の古き良き明治・大正・昭和の町と文人・詩人に想いを馳せました。その後は、箱根湯本駅裏のパターゴルフ場でトリッキーなコースで珍プレーを繰り広げつつゴルフの醍醐味の千文のくらいを味わいました。

2日目は、県立「生命の星・地球博物館」です。小中高生が訪れる施設で120万点にもぶという展示で、特に大きな恐竜の骨格標本や世界の動物の実物標本には驚きました。1時以上もかけて見る中で、自然と向学心いっぱいの真面目な高齢者になりました。最後は、小田原城を見下ろす秀吉が小田原城を攻め落とすために急いで作った「一夜城」の城跡公園に行きました。あいにくの雨で車中見学となりましたが、小田原にまた来る機会があれば、もう一度は来てみたいところとなりました。

## 丹沢でBQQ（秋）

都立学校部会

2024年の丹沢日向溪谷でのBBQは、春と秋に2回行いました。紅葉の秋の様子を報告します。

小田急線伊勢原駅下車し、バスに乗り継いで日向薬師（バス停）から30分程でクワハウスBBQ会場につきます。着いてから、かまどを作り、火をおこし、食事までは、30分～40分ほどかかりますが、これも楽しみの一つです。BBQの道具（鉄板、網、トングなど）はレンタル、薪と炭は山小屋から買います。また、食材と飲み物は現地で調達。持ってゆくものは、マイカップくらいのもので。そばには日向川が流れ、鱒釣り（有料）もできます。一日退屈することは、ありません。往復の道のりもいい運動になります。毎年行っています。特に準備することなく参加できます。7名の参加で大いに盛り上がりました。



## 地図づくりについての研修会

中学校部会

2月8日に、会長松島と事務局小出の二人が講師となって上野不忍の公立中学校副校長会事務局にて「地図づくりについて」の話をしました。

### その1 若き頃にしていた地図づくり

会長松島からは、まだ若き頃に立川航空自衛隊で働いていた時の貴重な体験話でした所属部署での航空写真から精密な千5百分の一の精密な地図作りの話でした。撮影された空写真の立体的地形のデータを、スイス製の大きくて超複雑な仕組の地図作成の補正機械で、ユニバーサル横メルカトル図法で平面地図に変換する仕事でした。立体的写真を高度で複雑な補正計算式を使って数値を出すのに、当時はコンピュータもなく専ら手回し計算機を使つての複雑で難解な計算をしまくった苦労話もありました。ただ、地図と使用用途等は機密事項でもあり、あまり詳しいことは延べられませんでした。実に興味津々の話ばかりでした。

会長が故郷の青森から上京してなぜに航空自衛隊に入隊したのか、地図作製に関わるようになったのかの経緯の話は実に面白かったです。そして、上官に勧められて大学に進学し、中学教師への道を歩むことになった話に、参加者一同、引込まれていました。

### その2 高齢者の星「伊能忠敬」について

事務局の小出からの話は、定年後に研究会等で勉強したりして知り得た話でした。

- 伊能忠敬は地球一周近くを歩いた男。約1万里。昔の1里は500mだった話。そこから、東京首都圏にまだ現存する旧街道の一里塚と宿場の話題。
- 忠敬は名前が5つも変わっていった話。漁村網元の家で生まれ、名は小関三治郎。母親を若くして亡くし、神保三治郎→平山三治郎→伊能忠敬へと変わる。養子入りした酒屋伊能家の事業を立て直し、大成功をおさめて50歳で隠居、名は伊能勘解由に。通称は佐久衛門。
- 若き頃からの読書家で、天文に興味があり丸い地球の大きさを知りたいと、隠居後は江戸に出て若き天文学者（高橋至時）の弟子に。そして、北に行けば行くほど（緯度が高くなるほど）太陽高度は低くなる天体観測と距離を実測をして確かめたいと、北海道へ赴く。それも地図つりと称して幕府に許しを得て自費で出たという話。
- 彼の精密な地図づくりが幕府に認められ、西日本地図づくりを命じられた伊能忠敬。足掛け8回もの全国地図作りの実地踏査になってしまった話。しかし全日本地図の完成を見ずに死去。4年後、全日本大地図が完成して幕府に納めるものの国の秘密を公開されず。シーボルト事件もおきってしまう。
- 明治になって大日本地図は公開され、昭和になるまでずっと使われた唯一の地図。そして彼は今、上野の源空寺に遺言で師匠高橋至時の隣に低い墓の下で静かに眠っているという話。

## 親子囲碁教室

都立学校

- 1) 実施 原則月第一土曜日（午後13時～午後15時）に開催しています。  
会場は、世田谷ボランティアセンターです。（東急田園都市線三軒茶屋駅から徒歩10分）。
- 2) 活動…どなたでも、そして親子で囲碁を楽しんでもらうため、対局や初心者向けの指導碁を中心に行っています。一昨年度より希望者に囲碁教室の前に学習時間を設け、教科指導（主に、英語、数学）も行っています。希望があれば、様々に対応します。
- 3) 参加者を募集しています。…親子に限らず、どなたでも、参加できます。初心者の方、有段者の方大歓迎です。この3月には、都立学校退職された方が新たに参加しました。囲碁のことは、全く知らない方でしたが、1日で、ルールを学び対局するまでになりました。

## 新年会（2025. 1. 25）



担当 小学校部会

今年の新年会は、弘済会会議室近くの麒麟宴で計画しました。麒麟宴の他に新宿や雅叙園など沢山候補をあげていただき選ぶのに迷いそうでした。その中で、新宿は会場までが複雑かなあ、雅叙園は予算が厳しいかなと勝手に思い込みその両面をクリアできそうな九段南の麒麟宴に決めました。大勢の方々にご参加いただき、中には久しぶりにお会いできた方々もおられて懐かしかったです。皆さんと楽しい時間を過ごすことができましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

開催日 令和7年1月25日（土） 12時～14時

場所 麒麟宴 千代田区九段南3-5-7

参加者 前川、大河内、針馬、湯澤、堀江、岡田、福岡、松島、西川、幸丸、岩本、豊田、宮崎、川上、石渡、藤井、小川、大谷、大西



## 令和 6 年度研究報告

## 東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会アンケート報告

主題 「不登校防止への退職教頭・副校長の役割について」

都立学校 大河内 保雪

## 1 はじめに

情報化、国際化により急激に変化する時代が続いています。また、コロナ禍や自然災害の多発によって、「予測が不可能な時代」を迎えています。このような社会の変化により国民生活にも変化がみられ、学校教育においても教育環境が変化しています。

学校では教員の多忙化が進み、全国的な教員不足が起こり、その対策として教員の働き方改革の検討が行われています。しかし、教員の中途退職者、新規採用教員の退職、精神的疾患による休職者の増加がみられます。

また、学校での ICT 教育の推進により、電子黒板や一人一台のタブレットによる教育が進んでいます。しかし、児童・生徒の多様化が進み、一人一人の児童・生徒への対応が遅れて、いじめや不登校児童・生徒が増加しています。

同時に、少子化、核家族化などの進行により保護者の孤立化、人間関係の希薄さから、家庭教育の低下が起こっています。

「令和の日本型教育」として、学校の ICT 教育の推進や主体的人間の育成が求められ、同時に、人間性育成の教育の必要性が求められています。

## 2 主題設定の理由（アンケートのねらい）

文部科学省の調査によれば、不登校児童・生徒は、34万人を超えて過去最高となっています。そして、不登校増加の理由としては、「コロナ禍の生活のリズムの乱れ」「コロナ禍の行事縮小などで登校意欲が減退」「障害などの理由で配慮が必要な子への適切な指導・支援が不足」が挙げられています。

東京都では、教員不足や教員多忙化の中で、学校教育にかかわっている退職教頭・副校長の役割は、ますます重要となっています。再任用職員、非常勤講師など学校現場で直接児童・生徒とのかかわりが深い退職教頭・副校長は、新しい時代への社会的認識や知見を深めています。

このように深刻化する不登校の未然防止、早期支援、長期化への対応のために、退職教頭・副校長としてどのような貢献ができるか検討しました。

## 3 研究方法

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会（以下「連合会」と略す）の小学校部会、中学校部会、都立学校部会でアンケートを実施した。アンケートの実施時期は、2024年8月1日～31日。

## 4 アンケート集計結果

質問1 あなたの所属部会はどこです。

① 小学校部会	② 中学校部会	③ 都立学校部会	計
55	100	30	185

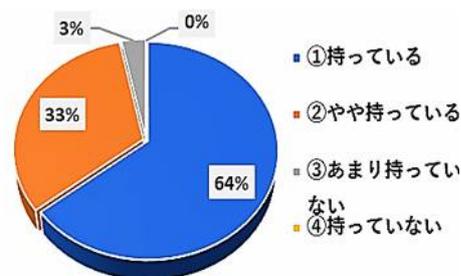
質問2 不登校児童・生徒の指導に関わったことがありますか。(複数回答可)

	小	中	都立	計	
①担任として	37	63	15	115	
②学年団として	12	31	5	48	
③管理職として	45	0	9	54	
④無い	0	6	6	12	
計	94	100	35	229	

➤ 約半数のかたが、担任として不登校児童・生徒と関わってきたと応えています。

質問3 不登校の現状について危機感をお持ちですか。

	小	中	都立	計
①持っている	43	60	16	119
②やや持っている	10	37	13	60
③あまり持っていない	2	3	1	6
④持っていない	0	0	0	0
計	55	100	30	185



➤ 「危機感を持っている」(64.3%)と「やや持っている」(32.4%)で、96.7%が危機感を持っていると応えている。ほとんどの方が、不登校児童・生徒に関わった経験があり、現在の不登校問題の深刻さを強く認識していることが分かりました。

質問4 不登校者数を減少させるために、最も改善を要するのは、次のどれだとお考えですか。

	小	中	都立	計	
①家庭	18	37	11	66	
②地域・関係諸機関	9	32	4	45	
③学校	10	33	9	52	
④児童・生徒	3	4	3	10	
⑤制度・法	13	22	2	37	
⑥その他	2	2	1	5	
計	55	130	30	215	

⑥その他…・専任の配慮(都立学校)・担任に受け持つ生徒数を減らし、教員を増やし、教員にゆとりを与える。(中学校)・減少を目的とするのではなく不登校者への支援という視点での捉え方が大切(中学校)

➤ 改善を要するのは、家庭、学校、地域・関係諸機関、制度・法の順となっている。

質問5 あなたが不登校の未然防止のために大切にしてきたことは何ですか。

	小	中	都立	計	
①家庭との連携	19	35	14	68	
②地域・関係諸機関との連携	3	12	1	16	
③授業改善	2	11	1	14	
④安全・安心な学校風土	8	11	6	25	
⑤児童・生徒が信頼関係を育む場の設定	20	38	7	65	
⑥その他( )	3	2	1	6	
計	55	109	30	194	

⑥その他・・・家庭訪問（都立学校）

- ・誰でも不登校になるという視点と防止しなくてはならないという考えを捨てる  
ことが大切（中学校）
- ・親子の間でゲームにしろ、スマホにしろ、取り込まないように話し合うことが  
家族の絆を深める（中学校）

➤ 「家庭との連携」、「児童・生徒が信頼関係を育む場の設定」が重要である。

質問6 退職教頭副校長会連合会として、不登校対策に関わるとすれば、最も有効な支援は次のどれか。

	小	中	都立	計	
①教職員への支援	19	43	15	77	
②不登校児童・生徒への支援	14	40	7	61	
③不登校児童・生徒の保護者への支援	14	17	6	37	
④その他	8	4	2	14	
計	55	104	30	189	

- ④その他・・・区市町村教委及び都教委との関わり（都立学校）・①も②も③も法改正が必要（都立学校）・職員室のことを最も理解している副校長の声から改善策を作成し、中教審に提案。（中学校）・不登校を困ったことだと考えるのではなく不登校児童・生徒と保護者に寄り添う支援（中学校）・今も学校制度の中では、関わることは難しい（中学校）・この問題は深い闇に見舞われているので学校、家庭、本人の明るい未来に向き合って行こう

➤ 「教職員への支援」、「児童・生徒への支援」、「保護者への支援」の順となっている。

質問7 質問6の支援の具体例について、どのような支援に取り組めるとお考えですか。

(自由記述) 100 を越える意見が出されました。一部を紹介すると

#### 小学校部会

- ・公教育、一斉授業とか存続に危機感を感じる。各種対策しても減少完全に0にはならない。社会の変化、個中心に学校制度も変化していくべきか？
- ・学校に出向いて不登校児への直接支援、担任へのサポート等のカウンセリングを行ってほしい
- ・担任の不安を取り除く、担任だけに任せない支援
- ・教室以外の部屋の設置と支援員の配置
- ・各区市町村における不登校児童の実態把握と児童が家庭からどの関係機関につなげて外出できるようになるのかあらゆる選択可能なケースの共有
- ・日本の教育が危機的状況で、何から支援したら良いか難しいと思う

#### 中学校部会

- ・都が進めている巡回指導、チャレンジクラスが定着できるための支援員の派遣
- ・教員の定数を増やして個々の児童生徒の心のケアに取り組む。
- ・不登校児童が乗り越えた事例など経験をお話しする場を設定する。
- ・多様な学びを確保するための提案…①教育委員会主催で指導教諭による授業動画を作成。動画の内容は各教科の知識技能分野 ②オンラインで児童・生徒に動画を配信。教育委員会が視聴者から「学習履歴」を一括管理し、通知表に反映。③学校の教員はレシピ「思、判、表」のみの指導を担当。指導のポイントを絞ることで指導向上につなげる。
- ・不登校支援するセンターでのカウンセリング(指導や助言)
- ・教室、保健室以外の部屋に不登校支援員を配置し、支援員が家まで迎えに行く。
- ・自らの体験をもとに不登校問題に悩む教職員の相談にのる。具体的に要望があれば親子への面談実施。
- ・不登校児童・生徒の保護者を対象とする(参加しやすいように呼びかけは全保護者) 専門家による講演会

#### 都立学校部会

- ・担任、管理職、保護者等の話し合いのもとで児童・生徒の学習指導を行う中で学校保護者等へ児童、生徒の考えを伝え改善を図る。
- ・不登校保護者の相談窓口を設ける
- ・一教員に負担を負わせるのではなくチーム(学年団等)として対応して行く
- ・事例解決策の調査結果の共有
- ・各教委との懇談⇒連合会の要望に誠意をもって対応させる⇒文科省に働きかける
- ・学校カウンセラーの活用、担任が生徒や保護者との連絡を密にする。
- ・不登校問題に取り組む支援団体の紹介
- ・定期的な面談と、担任等教員との橋渡し。場合によっては、外部機関との連携

#### 全体的な傾向として

- ・教職員の支援: 教員の負担軽減、研修の充実、相談体制の構築など、教員が働きやすい環境を整えることの重要性が強く意識されている。
- ・保護者との連携: 保護者との信頼関係を築き、連携を強化することで、生徒の支援をより効果的に行うという考えが根強い。
- ・生徒への直接支援: 個別指導、カウンセリングなど、生徒一人ひとりの状況に合わせたきめ細やかな支援の必要性が指摘されている。

- ・教育環境の整備: 多様な学びの機会を提供する。学習環境を整えることで、生徒のモチベーションを高めるといった意見も多かった。

### 具体的な支援策と今後の検討課題についての意見

- ・教職員の専門性向上: 不登校に関する研修の充実、メンタルヘルスに関するサポート体制の強化
- ・保護者との連携強化: 定期的な面談、保護者向けの講座の実施、相談窓口の設置
- ・生徒への直接支援: 個別指導、カウンセリング、居場所づくり、フリースクールとの連携
- ・教育環境の多様化: 多様な学びの機会の提供、少人数制クラスの実施、柔軟なカリキュラム導入
- ・学校全体の体制整備: 専任の相談窓口の設置、チームでの支援体制の構築、学校全体の意識改革

## 5 考察

アンケートの結果からは、次のようなことが明らかとなりました。

- ① 退職教頭副校長は、在職時代に不登校児童・生徒に関わり、今日の不登校児童・生徒の増加に、共通して危機感を持っています。
  - ② これまで、不登校児童・生徒の解消のために、管理職として家庭との連携を深め、学校として児童生徒と教員の信頼関係を深める場の設定に力を入れてきました。
  - ③ 退職後の教頭副校長としては、不登校防止のための対策として、教員への支援が重要と考えています。この結果を踏まえて、不登校の未然防止、初期対応、長期化への対策の3つの段階で、学校（教員）、児童生徒、保護者、地域社会での不登校防止を検討した
- 1) 不登校の未然防止への対応として、学校での授業充実が挙げられている。魅力ある授業や教科指導の充実のために若手教員の指導や支援を行う。  
保護者から信頼される学校づくりが必要となります。
  - 2) 初期対応としては、不登校児童・生徒を担当が一人で抱え込まないために学年団や学校全体の雰囲気や教員間の交流を図る必要があります。  
このような管理職への指導助言が必要となります。  
また、校内別室支援員として生徒一人ひとりに寄り添う指導が求められます。
  - 3) 長期化への対応としては、不登校児童・生徒を抱える保護者への支援が必要となります。とりわけ、保護者が孤立して悩むことを解消するための相談機能の充実が求められます。  
長期の不登校児童・生徒の対応としては、オンラインによる授業の実施が必要となります。  
また、学校以外の児童生徒の居場所づくりも行われます。

## 6 今後の課題（まとめ）

不登校児童・生徒の対応のために、教育委員会の学校への支援や地域でのフリースクール開設や子どもの居場所づくりなど多くの対策が行われています。そして、東京都は、不登校児童・生徒等への対策として、2024年に「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」を作成しています。

連合会は、東京都教育委員会と連携して、今日の教育課題の改善に取り組んでいます。これまでも多くの会員が再任用教員や非常勤講師として学校現場を支えています。特に、教育経験の豊富な退職教頭副校長は、管理職の支援や保護者への対応に力を発揮しています。

今後は、グローバル化による外国人のための日本語教育、生徒の多様化による障害者教育への支援、部活動の地域移行への支援などが残されています。

資料 アンケート用紙

**東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会アンケート****2024. 8. 15****質問 1** あなたの所属部会はどこですか。

- ① 小学校部会      ② 中学校部会      ③ 都立学校部会

**質問 2** 不登校児童・生徒の指導に関わったことがありますか。(複数回答可)

- ① 担任として関わった      ② 学年団として関わった  
③ 管理職として関わった      ④ 無い

**質問 3** 不登校の現状について危機感をお持ちですか。(一つだけ)

- ① 持っている      ② やや持っている      ③ あまり持っていない  
④ 持っていない

**質問 4** 不登校者数を減少させるために、最も改善を要するのは、次のどれだ  
とお考えですか。(一つだけ)

- ① 家庭      ② 地域・関係諸機関      ③ 学校  
④ 児童・生徒      ⑤ 制度・法      ⑥ その他(      )

**質問 5** あなたが不登校の未然防止のために大切にしてきたことは何ですか。

- ① 家庭との連携      ② 地域・関係諸機関との連携  
③ 授業改善      ④ 安全・安心な学校風土  
⑤ 児童・生徒が信頼関係を育む場の設定  
⑥ その他(      )

**質問 6** 退職教頭副校長会連合会として、不登校対策に関わるとすれば、最も  
有効な支援は次のどれですか。(一つだけ)

- ① 教職員への支援      ② 不登校児童・生徒への支援  
③ 不登校児童生徒の保護者への支援      ④ その他(      )

**質問 7** 質問6の支援の具体例について、どのような支援に取り組めるとお考  
えですか。(自由記述)

## 東京都教育委員会への要請文

都公退教連第601号  
令和6年11月29日東京都教育委員会  
教育長 坂本雅彦 様東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会  
会長 大西規子  
東京都公立小学校退職教頭・副校長会  
東京都公立中学校退職教頭・副校長会  
東京都立学校退職教頭・副校長会

## 要 請 書

第4期教育振興基本計画が策定され、教育は大きな転換期を迎えています。教育は家庭を基盤として、社会を牽引する駆動力の中核を担う営みであることから、新たな学びの在り方とそれを実践できる教職員の人材確保、時代の流れを見据えた学校の組織体制の確立が、超スマート社会（Society5.0）をよりよい社会にする鍵となると私たちは考えます。その実現のために、私たち東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会では、退職後も次代を担う子供たちの「生きる力」の育成に一層の努力をし、家族を愛し持続可能な社会の創り手の育成に向け、それぞれの立場で関わり、東京都の教育のために尽力して参ります。

東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会では、都民や学校現場からの教育への課題が多く寄せられております。私たち東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会では、豊かな教育を実現するために、教職員の資質の向上と人材の確保が不可欠であるとの認識をもっております。

そのために、以下の項目について要望いたします。

## 要 望 項 目

## 1、「学校における働き方改革」の一層の推進のために、学校教育の質の向上と学校の組織運営を支援する都としての施策について

## (1) 教員の持ち時数の改善について

昨今の取り組むべき教育課題が山積する中で、持ち時数以外の校務や対応で、本来ならば時間をかけるべき不登校対策や特別な支援を必要とする児童・生徒対応に十分な手がかけにくい実態があります。都立全日制高等学校の講師算定基準と同等の「持ち時数18時間」への見直しの予算措置を要望します。

## (2) 教職員定数加配による学級人数の見直しについて

子どもたち一人ひとりへのきめ細かな教育を実行し、児童・生徒指導上の諸課題等の解決を図るには一つには教員定数の改善が考えられます。義務教育学級編成標準法の改正により、国の制度負担において、国の標準を、小・中学校ともに全学級での35人以下学級等の少人数学級とする必要があります。35人学級の早期実現を要望します。

## (3) 非常勤講師の執務環境の改善について

ICT環境が非常勤講師には整っていません。パソコンが1人1台確保されていること、それが印刷できること、程度の環境で十分です。東京都並びに区市町村教育委員会へのご指導を要望します。

## (4) 教員の待遇改善について

教員給与の低さとバランスの悪い業務内容等から教員への担い手不足が深刻化しています。都の手当ての検討と、超過勤務軽減に向けての取り組みを要望します。

## 2、副校長及び教職員の地位向上の施策について

## (1) 副校長の業務改善について

副校長の業務は、非常勤講師の任用の手続き、様々な学校の支援員等のサービス管理、老朽化し

た校舎等の管理の業務、働き方改革により新たに導入されたシステム等への対応の影響もあり、教職員の勤務時間が減少した一方、これまで以上に副校長の対応の幅が拡大し勤務時間が増加する傾向にあります。このことについての改善を要望します。

(2) 副校長の業務補佐について

多忙な副校長を補佐するため、副校長マネジメント支援員や非常勤教員が配置されていますが副校長との役割分担が校長等との間での話し合いが十分に行われていないために配置はされたものの活用されていないという声があり、この点での改善を要望します。また、情報化時代の対応として、情報担当並びにホームページの管理など専門員の配置を要望します。また、学校は、謂われのない非難や中傷に悩まされる事案が増加しています。これに対応するためには、教育法に詳しい弁護士の配置を要望します。

(3) 副校長の長時間勤務の改善と処遇改善について

副校長は、相変わらず長時間の超過勤務に携わっています。教員の勤務時間の改善と共に緊急の課題となっています。また、校長の補佐職について、副校長は、上司である校長を補佐し、校長の経営方針を具現化するために努力しているにもかかわらず、いわゆるパワーハラスメントに耐えているという声があります。このような場合の副校長の支援を要望します。

(4) 配慮の必要な教職員の対応について

異動などにより、配慮の必要な教職員を配置された時の現場の負担は大きいものがあります。病休や通院の状況について、あるいは授業や保護者対応についての記録の蓄積は、副校長への負担になっていることが少なくありません。未配置の教科がある中で、後補充探しでの副校長の負担は、さらに大きなものがあります。この点での改善を要望します。

3. 教育一般について

(1) 部活動の見直しと改善について

部活動の地域スポーツクラブ等への移行が求められ、学校のスリム化が進んでいます。一方で、スポーツ等の指導者の不足している地域や、保護者の金銭的負担などの家庭状況の差において格差が生じている地域もあります。中学校体育連盟の取り組みにより全国大会が見直され、勝利至上主義の部活動が見直されていることを、より確かなものにするためにも、数校で取り組む合同部活への移行やスポーツ外部指導者の待遇改善・保護者の費用負担への支援について要望します。

(2) 不登校について

それぞれの児童・生徒が自己実現に向けて、どの子も見落とされることなく手だてを講ずるとの教育委員会の取り組みには敬意を覚え感謝しています。共生社会を実現していくうえで、多様性を前提とした学習者の視点に立ち、誰もがいつでもどこからでも、誰とでも自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず一人一人の可能性が最大限に引き出されるという方針には賛成です。不登校対応の一層の取り組み強化を要望します。

(3) 地域の学校間格差改善について

予算、人材や設備において区市町村による地域や学校間格差が大きくなっています。例えば、部活動予算や部活動講師報償費などの地域間格差があります。また、校舎の管理への対応が地域や学校によって遅いように思います。校舎の老朽化等は、学校独自では解決できない場合が多々あります。区市町村の改築計画には、予算状況も異なり、優先順位も異なることから、地域差があります。区市町村が改築を進めるに当たり、学校施設についての補助や地域格差の改善を要望します。

(4) 教員志望者への情報の発信について

今年度も教員の確保が十分とはいえ、中学校でも英語や技術・家庭科等で欠員となっている状況があります。小学校でも、教員の急な休みに対応できず、副校長に負担が集中している学校もあります。教職希望の学生の意見の中には、「ライフワークバランスが取れていない職場」だと捉える人や、学生の保護者の中にも、教職への不信感がぬぐえない人も、とも聞いています。給与面だけではない「教職の魅力」について、都民や学生への発信を要望します。

## 東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会会則

## 第一章 総則

第1条 本会は東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会という  
所在地を会長宅に置く

第2条 本会は東京都公立小学校・東京都公立中学校・東京都立学校退職教頭・副校長会（以下都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会という）相互の連携を密にし併せて教育の振興に寄与することを目的とする

第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う

- 1 教育振興の為の事業
- 2 役員会が企画する事業
- 3 会員相互の親睦

## 第二章 会員・役員

第4条 本会は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会で構成する

第5条 本会に次の役員を置く

- 1 会長…1名
- 2 副会長…12名
- 3 理事…12名以上
- 4 事務局長…1名
- 5 監事…3名
- 6 顧問…若干名

第6条 役員を選出は次の通り行い総会の承認(多数決)をうる

- 1 会長は役員会により選出する
- 2 副会長は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会より各4名選出する
- 3 理事は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会より各4名以上選出する
- 4 事務局長は会長が委嘱する
- 5 監事は都小・都中・都立学校退職教頭・副校長会より各1名を選出する
- 6 顧問は役員会の推薦による

第7条 会長は会務を統括し本会を代表する 副会長は会長を補佐し会長事故ある時はその職務を代行する

第8条 理事は1庶務2企画3会計の業務を行う各担当者は会長が委嘱する

第9条 事務局長は本会運営に関する事項を整理し役員等の任務を補佐する

第10条 監事は本会の経理を監査する

第11条 役員任期は2年とするただし再任を妨げない。  
任期途中で選出の場合は前任者の残任期間とする

第12条 顧問は必要に応じて本会の諮問を受ける

## 第三章 会議

第13条 本会の会議は総会・役員会とし会長がこれを招集する

第14条 総会は会則の変更(多数決)役員及び予算・決算の承認(多数決)事業・企画などの重要事項を審議する

第15条 役員会は必要に応じて開き会務について協議する

## 第四章 会計

第16条 本会の会計は分担金及び寄付金その他をもって充てる

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から始まり3月末日に終わる

## 第五章 付則

第18条 本会則は昭和62年7月17日設定年月日より施行する

改正平成6年6月18日

改正平成12年6月24日

改正平成16年6月23日

改正平成17年6月22日

改正平成18年10月6日

改正令和4年6月21日

(公財)日本教育公務員弘済会東京支部教育振興事業選考委員会について

当会における教育振興事業選考委員会の概要は以下の通りです。

<選考委員会の構成>

1. 学識経験者 1 名
2. 退職区長会より 4 名(異なる校種から)
3. 退職教頭・副校長会連合会より 4 名(異なる校種から)
4. 支部長が推薦する者

<選考委員の役割>

弘済会の公益事業について以下の選考等を行う

1. 奨学金貸与・給付候補者の決定等
2. 一般研究助成金交付候補者の決定等
3. 団体研究助成候補者の決定等
4. 研究助成奨励金候補者の決定等
5. 教育文化奨励金候補者の決定等
6. へき地学校支援事業候補者の決定等
7. その他、公益事業に係る助成の決定

## 2024 年度教育振興事業選考委員会 選考委員推薦名簿

貴団体名 東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

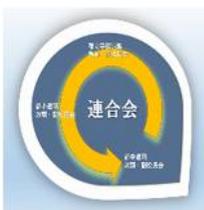
貴会での役職名	氏名	最終勤務校	職名
小学校庶務	豊田英昭	北区立柳田小学校	副校長
中学校副会長	西川 順	青梅市立第一中学校	教 頭
中学校理事	福岡 健	葛飾区立亀有中学校	副校長
都立学校副会長	大河内保雪	都立松原高等学校	副校長

\* 弘済会からの委嘱期限に合わせて検討する。

## 編集後記

令和6年度の連合会の活動は、連合会全体として、アンケートの実施と関連する研修会、都教委への要請行動、また、各部会の活動として、小学校部会の「旧安田邸・復興記念館・北斎記念館研修」、中学校部会の「地図づくりについての研修会」、都立学校の「親子囲碁教室」等々があり、ますます活発になってきました。それぞれ創意工夫し、魅力ある企画で、参加者の数も大幅に増えました。この会報で、この様子が窺い知れることと思います。これを継続・発展してほしいと思いました。

今年度は、役員改選があり、新体制になって1年目の年度でした。それぞれ役員の方々が、新たな役割分担にも慣れ、全体としてスムーズに運営できたように思いました。今後の発展を期待します。



東京都公立学校退職教頭・副校長会連合会

会 長 大西規子

事務所 〒113-0034 東京都文京区湯島4-12-2-102

TEL : 03-5809-0821 FAX : 03-5809-0863

印刷 都中退教事務局 編集 湯澤賢兒

連合会ホームページ

<https://to-tai-fuku-ren.com/>

会員のページにアクセスするためのパスワードは「2905」



この冊子は、日本教育公務員弘済会東京支部の助成金の一部で作成しています。